

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380437

研究課題名(和文) 19～20世紀アジアの「近代的雑貨」貿易と模造品市場に関する実証研究

研究課題名(英文) Trade on modern sundry goods and the rise of markets for copy and counterfeiting goods in 19th and 20th centuries Asia

研究代表者

古田 和子 (Furuta, Kazuko)

慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授

研究者番号：20173536

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：輸入雑貨とそのコピー品の氾濫は、様々な地域の経済発展の過程で問題となってきた現象である。本研究では19～20世紀のアジアにおける近代雑貨に焦点を当てて、輸入に伴って生じる現地でのコピー品製造、模造品・イミテーション品市場の簇生、輸入代替・輸出志向型工業化と労働集約的小規模生産の展開、受け手社会での「新商品」の誕生とその普及・販売など、経済史にとって重要だが従来十分に議論されてこなかった問題について実証分析を行った。

研究成果の概要(英文)：Fake, imitation, and counterfeit goods have long plagued domestic and international trade. While we are all familiar with contemporary attempts to control the manufacture and sales of such goods, economic historians have given the subject little attention. This project focused on problems associated with imported everyday-use sundry goods (zakka in Japanese) and the role played by local production of imitations, the rise of markets for counterfeiting and shoddy goods, import substitution/export oriented industrialization and the development of labor intensive small scale industry, and the acceptance of "new products" in the recipient societies in 19th and 20th centuries Asia.

研究分野：アジア経済史

キーワード：模造 コピー品 雑貨 アジア間貿易 アジア経済史 商標 輸入代替 現地生産

1. 研究開始当初の背景

雑貨品の生産・流通・品質に関しては日本経済史、アジア経済史、欧米経済史の分野で谷本雅之(2005)、沢井実(2013)、古田和子(2007)、本野英一(2008)、伊藤重聖(2010)、Berg(2005)、Dikötter(2006)などの研究があるが、雑貨のコピー品や模造品の氾濫は、現在でも世界各地で広く観察される問題であり、本研究課題について歴史的な経緯を踏まえた系統的な実証研究の必要性は高かった。

2. 研究の目的

人々が日常の生活で消費する小さな品々—雑貨—はグローバル経済史のなかでどのような意味をもつ存在であったのか。輸入雑貨とそのコピー品の氾濫は、さまざまな地域の経済発展の過程で見られる普遍的な現象である。本研究はこれらの小さな品々に光を当て、現地でのコピー品製造、模造品・イミテーション品市場の簇生、輸入代替／輸出志向型工業化と労働集約的小規模生産の展開、受け手社会での「新商品」の誕生とその普及・販売など、経済史にとって重要だが、必ずしも十分に議論されてこなかった問題について、19～20世紀のアジアを事例に検討を加える。

3. 研究の方法

(1)①日本・中国及び日本の植民地を中心とする東アジア地域の専門家5名によるそれぞれの地域における雑貨品の製造と流通を特徴づける。②それらの地域の輸出と輸入代替の動向を検討し、各地域間の相互関係を分析する。③以上から導き出されたアジアにおける特徴を、アジア以外の地域における雑貨品製造や流通に関する特徴と比較することによって、近代的雑貨貿易と模倣品市場に関する総合的な理解を高める。

(2)そのために①資料(文献資料・ビジュアル資料など)の検索・収集・整理、②予備的成果を取りまとめるための国内学会でのパネル報告や国際ワークショップの開催、③海外の研究者の参加を得て、17th World Economic History

Congress(2015年、京都)においてセッションを組織し成果を広く海外に発信するとともに、④研究活動の総括をする。

4. 研究成果

(1)Maxine Berg(2006)は当該分野にグローバルな視野を提供した優れた研究である。Bergは、17世紀以降世界的に盛んになった東洋工芸品の貿易が18世紀のブリテンでそれに似せた下級代替財の国内生産を勃興させたこと、これらの新商品は形成されつつあった中間層が自宅で使う消費財として広範に普及したことを実証した。18世紀ブリテンは抬頭する中間層にとって消費の持つ意味が必要から「歓び pleasure」へと再構成される時代であった。

研究代表者・古田和子は、Bergの研究に対して、19～20世紀に今度は欧米から流入した近代的雑貨がアジアにおいて洋風雑貨のコピー品製造とアジア間貿易を促したことを明らかにした。石鹸・歯磨き粉・化粧品・マッチ・ランプ・ガラス製品・玩具・洋傘・ボタンなどの近代的雑貨は、健康や衛生概念も含む新しい生活様式や思考様式を表象するものとして、勃興しつつあった中国沿海都市部の中間層を中心に普及していった。欧米雑貨の安価な代替品としての日本品は拡大するアジアの雑貨品市場を急速に捉えていったが、他方で商標の模造や consumerism vs. nationalism の問題を惹き起こし、愛国貨運動など現地生産による輸入代替工業化も促した。

粗製品や模倣品は、質の悪い商品がその質についての正しい情報が得られないままに売買される結果、競争の質も阻害されて品質にみあった適正価格が実現できないという意味で、純粹に経済学が扱うべき分析対象である。しかしこれを歴史的なコンテキストで検討してみると、技術移転やイノベーションによる正当かつ正規の経済発展に付随して、イミテーションによる新商品の生産拡大やローエンド型のシャディー品市場の簇生が、それら新商品の人々による広範な需要をとおしてその社会に広くて深い文化変容と市場経済の全般的進展とをもたらしていたこと

に気づく。古田は近代雑貨とその模倣品市場が形づくった 20 世紀アジアの物的風景 (the material landscape) を描き、零細な地元製造業者、輸出入業者、そしてこれらの小さな品々を需要する広範な普通の人々の対応を考察した。

(2) 分担者・谷本雅之は戦前期日本における高所得国向けの玩具輸出の展開を、「模倣」から「新機軸」への移行の観点から検討した。日本製の新興玩具(金属・セルロイド・ゴム製など)は、日本国内に市場基盤をもたないまま、専ら輸出处に生産を伸ばしていった。日本製玩具は欧米の模倣品を製造することで欧米の下級財市場に参入するが、次第に新機軸製品の開発によって一定の声価を獲得するに至る。そのプロセスの検討を通じて、近代雑貨の生産がグローバルな市場競争の中での労働集約的産業展開の一つのパターンとして位置づけられることを示した。

(3) 分担者・瀬戸林政孝は近代中国における在来の蠟燭産業が、近代雑貨として西洋蠟燭が導入されたことによって、どのような展開を示したかを、イミテーションと現地生産の観点から考察した。西洋蠟燭は明るさの点で優れていたため、近代中国では輸入品を模倣した商品が盛んに現地生産されるようになり模倣品市場も形成されるが、宗教儀礼では伝統的な中国蠟燭が依然として主要な位置を占めていたことが明らかにされた。

(4) 分担者・平井健介は日本植民地期台湾における石鹼の需要を、同化と工業化の観点から分析した。植民地社会では宗主国から流入する近代的雑貨が、その使用価値よりも「文明への同化」を体現する手段として位置づけられていた点に注目し、日本の同化政策の下で社会的地位を向上させようとする台湾人の行動が下級石鹼(浴用の化粧石鹼ではなく洗濯に使用する石鹼)の需要を形成したこと、それが台湾の石鹼

工業を成長させ日本製品の移入代替化をもたらしたことを明らかにし植民地工業化の一形態を実証した。

(5) 分担者・伊藤亜聖は現代中国の浙江省義烏に誕生した巨大な雑貨品卸売市場のフィールド調査を手掛けてきた。義烏の市場で売買される雑貨はローエンド型のシャディー品が多く品質の点では問題も多いのだが、義烏には世界各地からバイヤーが集まり盛んな取引が展開されている。1950 年代の計画経済期には財・産業管理システムのなかで優先順位の低い「周辺」として位置づけられた雑貨産業は、改革開放期に入り、国内市場における供給不足を補うべく、農村部における自由取引市場と工業集積とによって、義烏に見るような世界的な生産・集積・卸売市場を形成するに至った経緯を明らかにした。

(6) 国内外における位置づけとインパクト

①本プロジェクトは 2015 年 3 月に海外の研究者を招聘して研究課題をテーマにした国際ワークショップを慶應義塾大学において開催した。

②2015 年 5 月に、社会経済史学会第 84 回全国大会において『「近代」雑貨、模倣品市場、工業化:1900-2000 年代 東アジアの事例研究』と題するパネルを組織し、研究代表者および分担者が報告を行った。本パネルのテーマは国内の学会で初めて提起された新しい議論として、学会に一定のインパクトを与えることができた。

③2015 年 8 月開催の 17th World Economic History Congress に、本研究テーマで応募したセッションが採択されたので、“Small Things and Copy Culture in Global Economic History: From the Perspectives of 19-20th Centuries East Asia,” と題するセッションを組織して、研究メンバー全員に海外専門家も加えて報告を行った。G. Riello によるイギリス史からのコメントもあり、フロアとも活発な討議が展開され、本研究課題の新規性と重要性が国際学会において高い評価を得た。

(7)今後の展望

本研究では近代アジアの事例研究に焦点を当てたが、欧米やアフリカにおける事例との比較を行うことによって、新たな知見を得ることが期待できる。また、イミテーションが経済過程のなかで持つ意味についてより深い洞察を加えた議論が展開できる可能性が示された。

<引用文献>

伊藤亜聖、中国のローエンド型産業発展―「義烏」巨大雑貨卸売市場の示唆、東亜、2010、3月号

沢井実、有斐閣、近代大阪の産業発展、2013

谷本雅之、分散型生産組織の“新展開”―戦間期日本の玩具工業、岡崎哲二編生産組織の経済史、東京大学出版会、2005

古田和子、20世紀初頭における大阪雑貨品輸出と韓国、濱下武志・崔章集編東アジアの中の日韓交流、慶應義塾大学出版会、2007

本野英一、光緒新政期中国の商標保護制度の挫折と日英対立、社会経済史学、74-3、2008

Berg, Maxine (2005) *Luxury and Pleasure in Eighteenth-Century Britain*, Oxford University Press.

Dikötter, Frank (2006) *Exotic Commodities: Modern Objects and Everyday Life in China*, Columbia University Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

①谷本雅之、家内労働と女性―近代日本の事例から、アジア遊学、186、2015、61-73、査読無

②Asei ITO, Industrial Agglomeration and Dispersion in China: Spatial Reformation of the “Workshop of the World”, *China Economic Policy Review*, 3-1, 2014, 1-29 査読有

[学会発表](計24件)

①古田和子、アジア経済史から見た中国、慶應義塾経済学会、会長講演、2016. 12.22、慶應義塾大学(東京都港区三田)

②Masayuki Tanimoto and Ryoji Mori, Labour-intensive Industrialization in Global Competition: International Rivalry in the Toy Business from the 19th to 20th Centuries, *European Business History Association 20th World Congress*, 2016. 8.26,ベルゲン大学、ベルゲン市、ノルウェー

③Kazuko Furuta, Small Things and Copy Culture in Global Economic History: From the Perspectives of 19-20th Centuries East Asia, *The XVII World Economic History Congress*, 2015.8. 5, 国立京都国際会館,京都府京都市

④Kazuko Furuta, Product Imitation, Trademark Counterfeiting, and the Market in Early 20th Century Japan and China: Intra-Asian Trade in Modern Small Sundry Good, *The XVII World Economic History Congress*, 2015.8. 5, 国立京都国際会館,京都府京都市

⑤ Masayuki Tanimoto, From Emulation to Innovation: Japanese Toy Exports to High-income Countries before World War II, *The XVII World Economic History Congress*, 2015.8.5、国立京都国際会館,京都府京都市

⑥Masataka Setobayashi, Imitation, industrialization and quality in the candle market in China from the 1890s to the 1940s, *The XVII World Economic History Congress*, 2015.8. 5, 国立京都国際会館,京都府京都市

⑦Kensuke Hirai, Assimilation and Industrialization, *The XVII World Economic*

History Congress, 2015.8. 5, 国立京都国際会館,京都府京都市

⑧ Asei Ito, Bottom-up Industrialization in People's Republic of China: The Case of Small Goods Industries in Zhejiang, The XVII World Economic History Congress, 2015.8.5, 国立京都国際会館,京都府京都市

⑨ 古田和子、パネルディスカッション趣旨説明「近代」雑貨、模倣品市場、工業化：1900-2000年代 東アジアの事例研究、社会経済史学会第 84 全国大会、2015. 5.30 早稲田大学、東京都新宿区

⑩ 平井健介、日本帝国内相剋：製糖業を事例に、社会経済史学会第 84 回全国大会、2015. 5.30 早稲田大学、東京都新宿区

⑪ Kensuke Hirai Trade Friction over Chinese Sugar Market in the 1930s, International Workshop, Integration and Tension between Empire and Colonies, 2014. 5.15, Ehwa University, Seoul, Republic of Korea

〔図書〕(計 9 件)

① Furuta, Kazuk and Grove,Linda (eds.), Ushijima,Toshiaki, Setobayashi,Masataka, Takahashi,Chikashi, Hirai,Kensuke, Hellyer,Robert, Zhang,Wei, Chan,Kai Yiu, Tanimoto,Masayuki, Ito,Asei, Imitation, Counterfeiting and the Quality of Goods in Modern Asian History, Springer, forthcoming.

② 古田和子・羽田正・村井章介・貴志俊彦・鈴木英明・杉山清彦・高橋均・渡辺美季・大橋厚子・井坂理穂・森永貴子・貴堂嘉之・加藤博、ミネルヴァ書房、MINERVA 世界史叢書① 地域史と世界史、2016、315(179-199)

③ 古田和子・土田哲夫・李曉東・黄自進・許育銘・金蘭珠・李ペイ・貴志俊彦・浅野豊美・権寧俊・李廷江・笠原十九司・孫歌、中央大学出版部、近現代東アジアと日本—交流・相剋・共同体、2016、349(3-24)

④ Hirai, Kensuke, Sawai,Minoru, Hori,Kazuo, Takeuchi,Yusuke, Horiuchi Yoshitaka, Yamamoto,Yūzō, Woo, Jongwon, and Kaneko, Fumio, Springer, Economic Activities under the Japanese Colonial Empire, 2016, 154(115-136)

⑤ 古田和子、水島司、久保亨他、名古屋大学出版会 アジア経済史研究入門、2015、377(49-62)

⑥ 平井健介 須永徳武編、日本経済評論社、植民地台湾の経済基盤と産業、2015、404(173-200)

⑦ 谷本雅之 経営史学会編、日本経済評論社、経営史学の 50 年、2015、420(23-32)

⑧ 伊藤亜聖、名古屋大学出版会、「世界の工場」とボトムアップ型経済発展、2015、226

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古田 和子 (FURUTA, Kazuko)
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：20173536

(2) 研究分担者

谷本 雅之 (TANIMOTO, Masayuki)
東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授
研究者番号：10197535

瀬戸林 政孝 (SETOBAYASHI, Masataka)
福岡大学・経済学部・准教授
研究者番号：10383952

平井 健介 (HIRAI, Kensuke)
甲南大学・経済学部・准教授
研究者番号：60439221

伊藤 亜聖 (ITO, Asei)
東京大学・社会科学研究所・講師
研究者番号：60636885